

会員寄稿

測量設計業界に入って感ずること

株式会社新日本コンサルタント

設計計画本部水環境部流域保全グループ 大野 晴子

1. はじめに

今年4月、横浜の大学を卒業後、新卒で株式会社新日本コンサルタントに入社し約半年が過ぎました。

大学では建築学専攻でしたが、都市計画分野の課題を通じ「建築」という枠組みよりも大きなスケールで人々の「住環境」を創り出すことに関心を持ち、インフラ整備や都市計画などを担う測量設計業界への就職を決意いたしました。また、地元富山での就職は設計対象が身近であることに加え、行政が主な顧客となるある意味特殊な測量設計業界において家族や友人といった身近な人々の生活を守り支えているという意識がやりがいや実感につながると考えています。

現在は河川や海岸、発電事業等に関わる業務を主とする部署に所属しており、新たな分野で学びの日々を送っています。

2. 業界に入って感ずること

(1) 業界に対する認識

実際に測量設計業界に入って、技術者は専門に対する深い知識に加えそれ以外の分野への幅広い知識が必要だと感じています。今後、専門に対する見識を深めると同時に行政や業界の動きを敏感に察知し、他分野への情報収集も怠らぬよう意識していきたいです。

また、個人作業が中心で和気藹々には程遠い職場かと思っていましたが、気軽に質問したり相談したりできる雰囲気があり、一人で悩むことはなく安心いたしました。個々の学ぶ姿勢が大切ではありますが、それを支える環境は整っていると感じています。

(2) 仕事に対するモチベーション

学んだことが町中に見られるのは楽しく、普段何気なく見ていた構造物やまちの仕組みも技術者による設計だと考えると胸が高鳴ります。

最近では少しずつではありますが計画段階から業務に関わる機会をいただき、実務を通し社会人として、技術者としてどうあるべきか諸先輩方からご指導いただいております。様々な基準を遵守しながらも独自性のある提案をすることがひとつ目指すべきところだと考えています。

3. 女性技術者として

男社会という印象を抱いていた測量設計業界ですが、女性技術者とお会いする機会も多々あります。弊社の先輩方も男性と遜色なく活躍しており、身近に見習うべき存在があることをうれしく思っております。

男性と同じようにはいかない部分はあるかと思いますが、やり方を変えてみたり他の部分でカバーしたりすることで幅広く活躍できる技術者を目指します。

また、今後女性技術者がますます増え、活躍できる業界となるよう貢献していきたいと考えています。

4. 将来の展望

社会人としても技術者としてもスタートしたばかりで、まだやりがいや楽しさというより目の前のことに必死になっているのが現状ですが、一日も早く技術者として信頼される存在になりたいと考えています。

スケールの大きな業務も魅力的ですが、現時点では人々の暮らしに密着した馴染み深い水環境の整備に一から携わり計画から施工までを体験することで、仕事全体を把握するとともに技術者としてのやりがいや責任を実感できたらと思っています。

まちを歩いていても道路や河川構造物などの社会資本を誰が設計したかはわかりません。いわば裏方の仕事ではありますが、それに甘んじず、設計者の名前や顔が出て恥ずかしくない誠実な仕事ができるよう日々精進してまいります。